

富山市総合計画審議会第1回安心部会 概要

場所：富山市役所議会棟8階 803会議室

日時：平成17年10月27日（木）

10:00～11:30

1 開会

2 部会長あいさつ

※宮田部会長 あいさつ

- ・ 先般、全体の会議が開催されたが、昨日から部会が始まっているようで、いよいよ本格的にスタートしたとの印象がある。合併前の富山市でも福祉関係の部会長であったが、今度の部会は、福祉、教育の他、一部雇用の関係もあるなど大変範囲が広いことから、委員の皆さんにもご苦勞をお掛けすることと思う。

しかしながら、将来の子どもを育てることや、将来の基盤作りという重要な分野であると考えており、本当の意味で安心部会の名にふさわしいものとするため、ご協力いただきたい。

3 部会長職務代理者の指名

- ・ 宮田部会長より、部会長職務代理者に 川岸 みづほ委員 を指名

4 今後の部会の進め方について

- ・ 事務局（富山市企画調整課長）より説明

5 議事

（1）部会での主要検討事項について

（2）評価指標等について

<概要>

（部会長） 本日の会議は、特にテーマを絞らず、自由闊達な意見交換をしたい。

（委員） 教育について、最近、ゆとり教育の見直しや総合的学習の取扱いについて議論されているが、そもそも、国が人間観を設定していないことに問題があると思う。富山市として独自の理念を追求してはどうか。

生きる力の背骨（バックボーン）になるようなものとして、教育理念・教育目標などを見直すことも大事だと思う。

（委員） これからは、いままでの延長線上の議論ではなく、視点を変えて考える必要がある。例えば、高齢者にとって一番の不安は、一人身になることだと思

うが、このような視点が欠けている。高齢単身者は、衣・食はなんとかなるが、住の問題が深刻であり、石川県にあるような独居用の公営住宅が、富山市にも必要である。

(委員) 最近、父親が要介護状態になり、介護が切実な問題になったが、今、待った無しの問題は、介護、雇用、女性の就労やニートの対策だと思う。また、これらの問題について、現実と認識のギャップがあるように思う。

(部会長) 市民の個別具体的なニーズに対応できるような施策が必要であるということのようだ。市では、地域毎に市民ワークショップを開催されているとのことであり、そこでの議論にも期待したい。

(委員) 介護・福祉の計画策定にも参加しているが、その計画と総合計画の関連はどうなるのか。

(事務局) 新設合併ということもあり、市の様々な計画を一斉に策定している状況であるが、総合計画と個別計画とは整合が図られるようにする。

(委員) 大きな柱になるものが示されていないようだが、今後決めていくことになるのか。自分なりには、人づくりと自然との調和が柱となるのかと考えている。

(委員) グローカル（グローバル＆ローカル）な視点が大事である。里山をどう活かしていくか。骨太は何で、末梢は何かを明確にすべき。

(部会長) 部会長間の調整の場があるので、そこでも検討していきたい。

(事務局) 一般的には、従来のを踏まえながら進めるのであろうが、今回は、従来が無いところからスタートしている。部会の協議の中から見えてくるものもあるのではないかと考えている。

(部会長) 建設計画を見ても漠としているが、これを具体化するのが今部会の仕事の一つなのかもしれない。

(委員) 人づくりとは、自分達がやってきたことをきちんと伝えればよいはずなのだが、それが上手くいっていない。地域教育を初めとして世の中全体が勉強し直す必要がある。

(部会長) 価値観が多様化するとともに、地域社会が希薄化してきている。人づくりや人づくりをしていく地域の在り方を見直し、何か確かなもの、伝えるべき

ものを伝え育てていく必要がある。

(委員) 教師が価値観を教えてはいけないとの考え方があるが、アメリカでは、普遍的な価値観については、教師がしっかり教えるべきであるというふうに変ってきている。人格教育の重要性を再認識し、学校や家庭で価値観を教育するといった取り組みを行っても良いのではないか。

(部会長) 地域社会がコミュニティー教育を担う、教育の地方分権化も大事であろう。

(委員) 大学には学校の評価委員会があるが、小中学校でも必要なのではないか。東京都など、学校評議員制度を既に実施しているところもある。

(委員) 先生の質の問題もあるのではないか。教える側を教える必要はないか。

(事務局) 東京都の学校評議員制度は、地域と学校の関わりが少なかったこともあって始まったようだが、旧富山市では、地域が学校を後押しするような実態が元々あった。学校評議員制度を導入するにしても、目的を明確にしておかないと屋上屋になる心配がある。

(委員) 自分の地元校区では、学識経験者と PTA、自治振興会長等でそういった組織を作って学校の評価を行っているようだ。ただし、教師の評価は行わない。

(委員) 評価指標について、住みたいというニーズが高く現れているようだが、果たしてそうだろうか。大学進学者の多くは県外に出て、30%位しか帰ってきていないのではないか。

(部会長) 以前、高岡市の研究をしたことがあるが、高岡は他と比較して 20 代の女性が少なかった。都市の魅力と 20 代の女性の数に、何らかの関係があるのかもしれない。また、富山大学は、70%位が県外生だと思うが、それをどう定着させるか、それらをどう指標に反映させられるかということを考えてみるのも良いかもしれない。

(委員) 結婚しないということを反映したデータは無いのか。

(部会長) 非婚率の現状把握は必要であると思う。

(委員) 少子化、高齢者、雇用問題は、それぞれニーズが違うので、一緒に議論するのはいかがなものか。

(部会長) ワークショップやパブリックコメントなどで若い人の意見ももらいたい。

(委員) 社会が発展してこそ個人の発展があるのだと思う。行政にしてもらうこと以前に、自分達で何ができるか考え、できることをやるという姿勢が大事。

(部会長) 個々があって集団が成り立ち、集団があってこそその個々である。

(委員) 結婚に関する教育も必要である。

(委員) 結婚教育に関しては、学習指導要領には無いと思うが、学校教育の中ではどこでやるのか、難しい問題ではないか。

(委員) 性の問題は、学校で教えるには限界があると思う。

(委員) 結婚や性に関しては、本来、家庭で教えるもの。学校では、愛を教える。

(委員) 外国語専門学校に関して、出願者数を指標としたものがあるが、これだけを見ると誤解を招く恐れがあり、指標は、無理矢理出さなくてもよい。外国語専門学校は、質の高まりに伴って、入学が難しくなっており、このことが、出願者数の減少の原因であると思う。本来は、習熟の度合いを測る指標であるべき。

(部会長) そろそろ、時間も迫ってきたので、本日の安心部会を閉会させていただく。
次回は、来月下旬の予定だが、もう一回本日のように自由に意見を出してもらうことにしたい。今回は、人材育成と教育の分野に意見が集中し、福祉や介護、雇用の分野の意見が少なかったと思うので、次回改めてこれらに関するご意見をお聞きすることとしたい。

(以上)

6 閉会